

交差点 97号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会

令和3年7月

自転車に 乗るならきみも 運転手

内閣総理大臣賞（最優秀作）

スマホより 集中するのは 前の道

文部科学大臣賞（優秀作）

「令和3年使用交通安全年間スローガン」（全日本交通安全協会・毎日新聞社）より

夏の交通安全について保護者の皆様へ

だんだんと夏らしい陽気となってまいりました。子どもたちも、もうすぐやってくる夏休みを心待ちにしていることでしょう。

これからの季節は、冬期間に比べて屋外での活動の機会が増えることが考えられるため、子どもたちにも日頃から十分な交通安全意識を持ってもらうことが大切です。

昨年一年間（令和2年1月～12月）に、札幌市内において交通事故によりケガをした中学生以下の子ども（未就学児を含む）は164人で、そのうち夏季の7月～9月の間にケガをした子どもは67人と、一年間全体の約4割を占め、前年比を5人上回る結果でした。

せっかくの楽しい夏に交通事故でケガをして悲しむことがないよう、大人がしっかりと交通ルールや日常に潜む危険について指導し、子どもたちを守ってあげる必要があります。また、大人たちが自ら手本となって交通ルールを守り、安全に配慮した行動を心がけるようにしましょう。

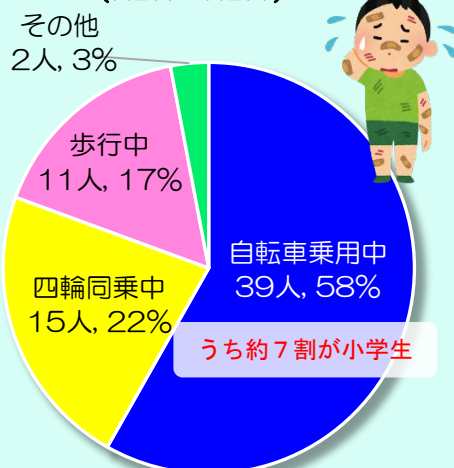
ご家庭でも、ぜひこの機会に交通安全について話し合う機会を設けていただき、皆様が健康で素敵な夏を過ごすことができるよう願っております。

札幌市内 夏の交通事故実態（令和2年7月～9月）

交通事故発生件数	967件（前年比：-241）
交通事故による傷者数	1,077人（前年比：-274人）
中学生以下の子どもの傷者数	67人（前年比：+5人）

一年間の
約4割

図1 中学生以下の子どもの状態別傷者数
(R2.7~R2.9)

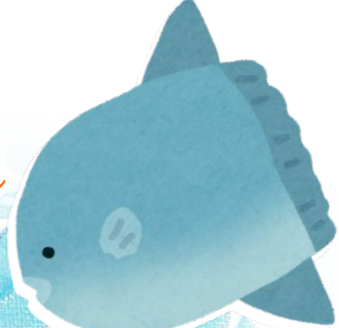


3か月間でケガをした子どもを事故時の状態別で見ると(図1)、自転車乗中が39人で、全体の約6割を占めています。そのうち、26人が小学生でした。自転車は、子どもにとっても気軽に利用できる便利な乗り物ですが、乗り方や事故の程度によっては大きなケガにもつながります。

また、夏季期間は屋外活動の頻度が多くなり時間も長くなることが予想されます。ドライバーから歩行者はたいへん見えづらいため、できるだけ目立つ色の服装や、夜光反射材の活用についても実践してみましょう。



～夏の交通安全指導のポイント～



- 車道や車道のすぐそばで遊ばせないようにしましょう。
(飛び出しによる事故の危険があります！)
- 安全な道路の横断の仕方について指導し、必ず横断歩道のあるところを渡らせましょう。
(信号の有無に関わらず、必ず周囲の安全を確かめてから横断させるようにしましょう！)
- 自転車乗用時には必ずヘルメットを着用させ、安全な乗り方について指導しましょう。

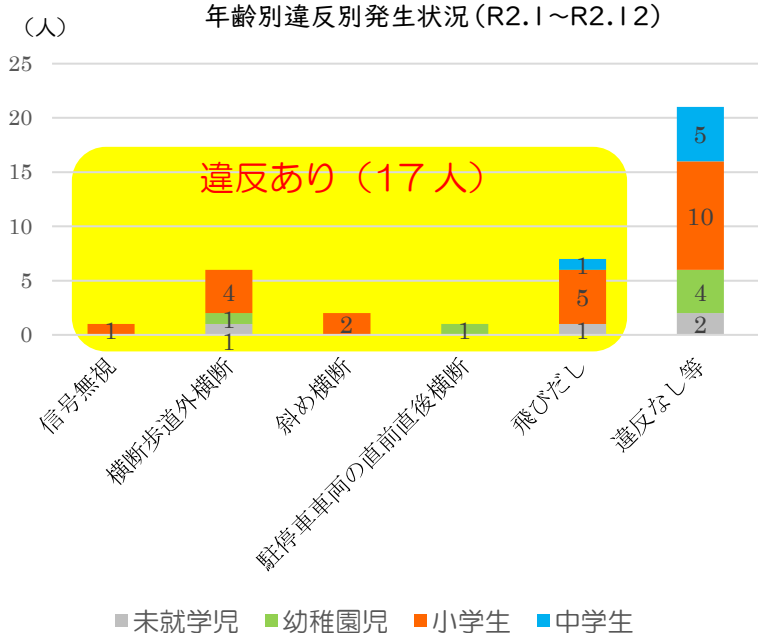
万が一自転車で事故を起こしてしまったときのため、

自転車損害賠償保険に加入しましょう！

ご家族の方がすでに加入している自動車保険等に、自転車事故時の補償も付帯されている場合があります。いま一度、加入状況をチェックしてみましょう♪



図2 中学生以下の子どもの歩行者被害の
年齢別違反別発生状況(R2.1～R2.12)



令和2年の一年間に、市内で歩行中の事故によりケガをした子どもは、38人でした。違反別に見ると、飛びだしが7人で最も多く、違反があった場合の約4割を占めています。年齢層別に見ると、小学生の22人が最も多く、違反があった子ども(17人)のうち、12人と7割以上を占めているのも小学生となっています。特にこの季節、外で楽しくできる遊びがたくさんありますが、遊ぶ場所の選択や周囲の状況に十分に気をつけましょう。



交通安全の4つの約束

道路をわたるまえに

車がこないか

車の音を

車がとおりすぎるまで

とまる

みる

きく

まつ

